

アジア都市間競争を勝ち抜け！

森ビル株式会社 専務取締役

森 浩生
もり ひろお



東京大学経済学部卒。1986年4月株式会社日本興業銀行入行。証券営業部、産業調査部を経て、1995年森ビル株式会社入社。2000年常務取締役就任後、2003年より専務取締役(現任)。2005年4月上海環球金融中心投資株式会社(日本法人)代表取締役および上海環球金融中心有限公司(中国法人)董事長就任(現任)。現在、森ビルグループ各社の経営に携わるとともに、森ビルのPM業務全般および上海環球金融中心プロジェクトを統括。

現在我が社は上海市浦東新区で一〇一階建ての超高層ビルを建設している。「上海環球金融中心(Shanghai World Financial Center)」である。

五月末の竣工に向けた最後の追い込みで、水泳で言えば最終のターンの後、息継ぎ無しでゴールまで泳ぎきるような状況である。高さ四九二メートル、オフィス、ホテル、商業施設、カンファレンス、展望台、テレビ放送スタジオなどが同居する複合ビルとなり、経済の成長著しい上海市のランドマークとして、世界中から注目を集めることになるだろうと期待している。

上海でビジネスをしていると多くの方に、「中国ビジネスは大変でしょう。さぞ苦労も多いことでしょう。」と、よく言われる。だが、本当に中国でのビジネスは日本よりも困難が多いのだろうか。

このプロジェクトは、建設は中国の大手ゼネコン二社を筆頭に、三〇社以上の施工業者で構成され、資金の半分は中国側から調達している。当然、日本のゼネコン相手とは勝手が違うし、銀行や行政対応も中国

流でなかなか大変である。一九九五年にスタートしたこのプロジェクトは、靖国問題などで日中関係がギクシャクした時期も着実に進み、途中のアジア通貨危機で工事を中断した期間を除くと、正味八年で完成したことになる。一方で日本の六本木ヒルズプロジェクトは着手から竣工まで一七年もかかった。

私有財産権など基本的な背景は異なり、単純に比較はできないが、都市計画のマスタープランに基づいた街区や道路整備・地下鉄網整備など、いわゆる都市インフラの整備に関して言えばはるかに上海の方が発展のスピードが速い。計画中の滑走路が遅々として進まない成田空港と、上海の浦東国際空港とを見れば、その差は明らかである。

共産党一党国家で行政権が強い故、そういったことが可能なのだと思われがちだが、実際は、行政サイドは極めて研究熱心で、新しい制度や技術の導入に対し合理的で柔軟に対応しているというのが、正直な印象である。行政側が街のインフラ整備に

必死に取り組んでいる姿勢を見るにつけ、我々民間の開発会社としては、街の将来像を確信でき、とても心強く感じられる。

昨年当社で、東京のビジネスマンを対象にアンケートを実施した。どの都市がアジア経済の中心であるかという問いに対し、現在は東京であると見ている人が一番多いが、今後五〜一〇年後では、四一%の人が上海と答え、東京と答えた人二五%を遥かに上回っていた。東京で働くビジネスマンでさえ、東京の将来に関して危機感を抱いているのである。

これからのグローバル競争の時代において、東京はアジアの各都市と競争していかねばならない。ジャパンパッシング、東京パッシングとならない為にも、新しいことに挑戦しやすい環境を作り、官民が一体となって東京の発展を進めることが求められるのではないだろうか。我々の上海での業容が拡大すればするほど、そういった想いを強くする。

次号は、サンヨー食品㈱代表取締役社長、井田純一郎氏にお願いします。



(敬称略) 小長啓一→野々内隆→根来泰周→石弘光→武藤敏郎→高橋温→増田寛也→西澤潤一→内田盛也→中原恒雄→今井敬→室伏稔→上島重二→西室泰三→依田巽→重延浩→吉村作治→中川武→池内克史→中島秀之→元村有希子→石倉洋子→内永ゆか子→秋池玲子→富山和彦→五藤信隆→伊藤公平→吉田晃→森浩生

※本コーナーは、弊会ホームページでもご覧頂けます。